

平成24年度農業情報処理競技大会指導講評原稿

川島 一秀（群馬県立伊勢崎興陽高等学校）

情報処理技術競技は、農業情報処理の向上を目指して行われる大会であり、普段の授業で身に付けた表計算ソフトウェアや文書作成ソフトウェアを活用し、問題を解決することが求められています。

大会運営に際して、本年度新たに変更された点は、従来各校のパーソナル・コンピュータ（以下、PCという）やプリンタを持ち込んで競技が行われましたが、開催校のPCを使う形に変更し、全員が同一条件で競技できるようになりました。

この競技は、データ入力量が多いこともあり、時間内に仕上げるためにも、入力スピードを高める必要があります。そのためには、普段の授業からホームポジションでキー入力するなど、日々の授業や練習のなかで入力スピードを高める努力が必要だと思います。

本年度は「トマト生産」に関する問題が出題されました。配点は、筆記試験である情報知識が100満点、表計算処理（500点）、グラフ作成（200点）、考察文書処理（200点）の計1000点満点で行われ、実技は、表計算、グラフ作成、考察文書の作成の順で行われることになっています。

当日は、24名（欠席者：4名）が競技に挑み、1/3にあたる8名が入賞しました。各競技の平均点は、情報知識が49.6点、表計算処理321.5点、グラフ作成35.0点、考察文書処理20.0点で、合計点の平均は426.0点でした。例年550点程度が入賞ボーダーなので、過去問などで練習を重ね、大会に臨む必要があります。

以下、問題別に気づいた点を述べます。

【情報知識】

筆記試験は、普段の授業において興味関心をもったり、疑問点などを教科書でしっかりと確認しておくとういと思います。今回の問題では、地理情報システム（GIS）の略称を問う設問で、携帯電話などで身近な「GPS」と答えた生徒が多かったです。

【表計算処理】

表計算の最高点は470点であり、400点以上は7名いた。仮に300点台でもグラフ作成とあわせて500点近くとれると入賞が見えてくる。そういう意味では、細かな点で指示通りの作業をしっかりとこなせるよう、問題中の「指示」をしっかりと読む必要があります。

【グラフ作成】

グラフ作成取りかかれない生徒も多く、16名は0点であった。データの指定はできていたものの、行列の指定ミスのためにグラフを作成できない生徒もいました。

【考察文書】

入力スピードの遅い生徒は考察文書までたどりつかないので、解答した者が少なかった（5名）。入力スピードの向上は、入賞のための必要条件といえます。

来年度の全国大会では、公開種目ながら「農業情報処理競技会」が再び開催されることになりました。9月中旬に他の種目に先がけて東京情報大学で実施されるのにあわせて、県大会も7月に実施され、代表2名を決定します。来年度、全国大会出場を目指す人、県大会入賞を目指す人など目標設定はそれぞれだと思いますが、この「研農」を手にした日から、来年度の大会に向けてスタートを切ってください。ある程度の入力スピードがあれば、あとは練習量の多少が入賞の分かれ目となるはずです。